

ETTO

#011

2018 Autumn

【 えっと 】

広島県

医師として広島県を「えっと」楽しむマガジン

医師として広島県を「えっと」楽しむマガジン

ETTO

【 えっと 】 2018 Autumn #011

広島県地域医療支援センター（公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構）



特集

臨床研修の病院を訪ねて 学びの場 2018

広島県地域医療支援センター
（公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構）
が発行する、

医学生・研修医・若手医師に
広島県の医療をPRするための
広報冊子です。

今号は、広島県の3つの研修病院に密着し、
研修医と指導医に自院の研修の魅力を
語っていただきました。

高度医療から地域医療まで充実した 広島で臨床研修をしませんか



広島県には24の臨床研修病院があり、環境も病院規模も様々です。
多彩な臨床研修病院が提供するプログラムは、
必ずやあなたのニーズにマッチした研修を提供してくれることでしょう。



臨床研修病院合同説明会 （レジナビフェア）などへの出展



広島県では、できるだけ多くの研修医に
県内で臨床研修をしていただきたいと願っ
ています。
県内の臨床研修病院が共同で、合同説
明会「レジナビフェア」などに出席し、お揃
いの真っ赤なベストで医学生の皆さんをお迎
えしています。
充実した臨床研修を受けられる広島
にぜひお越しください。

若手・女性・ベテランの 活躍支援



県内で活躍する医師のために様々な
支援を行っています。
若手医師への医療機関横断的な研
修支援、女性医師が働きやすい勤務環
境整備・復職研修支援・子育て支援、
定年勤務医等への求職支援など、やり
がいをもって活躍できる環境づくりを進
めています。

広島県での就業支援



広島県での就業をお考えの医師の方
に、無料の職業紹介事業の許可を得
て、UIJターンの支援をしています。
ウェブでの求人情報の提供のほか、
個別のご相談にも対応しています。
具体的な時期が決まっていなくても構
いません。お気軽にご相談ください。

暮らしやすく楽しめる広島

広島県は、「日本の縮図」といわれているように、経済・社会・文化・商業・工業の様々な要素をもち、「都市」としての機能を有しながら、「自然（海・山）」も豊か。最近ではサイクリストの聖地として「しまなみ海道」に来られる方も増えています。さらに全国・県内移動のアクセスに優れているのも特徴。どんな人にも住みやすく、自分らしく自由に暮らすことができる、贅沢な地なのです。



地域医療への扉

ふるさとドクターネット広島

広島県地域医療支援センター（公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構）

<http://www.dn-hiroshima.jp>



広島県地域医療支援センターは、広島県・県内全市町・広島県医師会・
広島大学が協働し、広島県の地域医療の確保等のため、平成23年7月に
設置された公的団体です。

わたしたちは、広島県内の地域医療の確保に向けて、医師の地域偏在解
消のための配置調整や医師確保、人材育成等に総合的に取り組んでいます。

医師の立場からの助言ができるよう、医監も在籍し、みなさまのご相談やご
希望を伺っています。

【 お問い合わせ 】 広島県地域医療支援センター（公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構）
〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目2-3 広島県医師会館4階
電話：082-569-6491 FAX：082-569-6492 E-Mail：iryuu@hiroshima-hm.or.jp





歴史あるこの地で、医師として 広島赤十字・原爆病院

編集制作 【民間医局】株式会社メディカル・プリンシプル社
Art Director : 勝又シゲカズ Writer : 戸田千文 Photographer : 伊東昌信



充実の設備や高度な技術に触れ 自信を持って前に出られる医師に

広島市街中心部にある「広島赤十字・原爆病院」。
世界で初の原爆被爆者医療の専門病院としての歴史をもち、長く広島の人々に寄り添ってきた病院です。
そこで、二人の研修医とともに、同院ならではの強みや研修内容について聞きました。



山崎 正弘 先生
Masahiro Yamasaki
指導医
呼吸器科部長



岸 雄太郎 先生
Yutaro Kishi
広島大学卒
初期研修2年目



井門 和貴 先生
Kazuki Imon
広島大学卒
初期研修1年目

山崎：岸先生は2年目を迎え、井門先生は今年から初期研修に挑んでいるけれど、研修の雰囲気はどう？
岸：上級医の先生方がいい意味で僕たちにかまってくれるので、質問しやすい雰囲気があるのが嬉しいです。
井門：そうですね。おかげでコミュニケーションを取りやすいと感じます。
岸：医局が科によって分かれていないのも影響していると思います。全部の科が一つのフロアにあって壁がない。研修がはじまる前は、研修医だけの部屋もほしいなって思ったりしたけれど（笑）。実際に研修がスタートしたら、困ったときには直接上級医の先生方に聞けるなど、メリットのほうが大きいですね。
山崎：当院はいい意味で「おせっかいな人」が多いからね。研修医は毎年十人前後で多すぎず程よい人数。だから指導医をはじめとしたみんなが目を届かせていて、研修医を放っ



ておかない。できることがあれば、やってもらえるように声を掛けるよう意識している指導医も多いんだ。
岸：僕は消化器内科を専門にしたいと考えているのですが、この内視鏡センターや肝臓センターは、設備がかなり充実しているのも魅力に感じています。
井門：部屋数も多いし、ほかの病院と比べてさまざまな症例を診ることができそうですよね。
岸：それと僕は今、ローテーションで小児科の研修中ですが、ほかの病院の小児科と比べて白血病の患者さんを診る機会が多くあるように感じます。

山崎：当院の血液内科は日本有数。特に白血病の治療は全国でもトップクラスの実績があります。これは、もともと原爆被爆者の治療を多く扱っていたことが影響しています。
井門：無菌治療室が49床もあるというのも、非常に珍しいですね。そのため県内はもちろん、近隣の県からも多くの患者さんが診療を受けに来るといっても、僕がこの病院での研修を決めた理由の一つです。

山崎：研修医のみなさんには、そういった充実した設備や新しい機器についてもしっかりと学んでほしいと思っています。それぞれの科がそれぞれに高度なレベルで日々治療を行っているけれど、「研修医はこれから先に入ってはいけない」といった領域はないんじゃないかな。
岸：さまざまな手を積極的に経験できることも、ありがたいと感じています。

山崎：手技がうまくできるようなになると自信がつくよね。学生のころは知識は身につけているけれど、それだけだと頭でっかちになっちゃう。でも、手を動かせるようになる、現場で一歩前に出られるようになる。それができるようにすると、一気に伸びてくる。だからいろいろいな手技に挑戦してもらっているんです。

岸：頭でっかち……。確かに、大学で座学をしているけれど、研修医になってはじめて直接患者さんを診たときに、とても難しいなと感じました。

患者さんの訴えから、どんな疾患を考えるのか……。分からないことばかりで、上級医の先生にいろいろ教えてもらいました。
山崎：そういった経験を丁寧な、一つひとつ繰り返して行って、まずは基本の基本を身につけてほしいですね。
井門：ほかに研修医のうちに身につけておくべきスキルはありますか？
山崎：患者さんとの接し方ですね。世間ではよく「医師对患者」という対立構造が作られがち。でも、実際はそうじゃない。患者さんと私たち医師は、病気に立ち向かうためのパートナー。患者さんにもできるだけそういう気持ちになってほしい。そのための雰囲気づくりについても、身につけてもらいたいですね。
井門：患者さんや症例一つひとつに丁寧に向き合って学びたいという方には、ぴったりの環境ですね。



広島赤十字・原爆病院

〒730-8619
広島県広島市中区千田町1丁目9番6号
TEL : 082-241-3111 FAX : 082-246-0676
E-mail : kyouiku@hiroshima-med.jrc.or.jp

Hospital Director :
古川 善也

■ 病床数 : 565床
■ 指導医 : 49名
■ 初期研修医 : 18名



<http://www.hiroshima-med.jrc.or.jp>



内藤 洋子先生

Yoko Naito

指導医
皮膚科部長
研修プログラム責任者



大塚 由有子先生

Yuko Otsuka

指導医
産婦人科医長



香川 大樹先生

Daiki Kagawa

岡山大学卒
初期研修1年目



東 泰希先生

Taiki Azuma

近畿大学卒
初期研修1年目



サポートのなかで、伸び伸びと 中国中央病院

大病院にはない小回りが利く体制で 研修医を病院全体でサポート

研修医としてのスタートを切ったばかりの二人。
彼らを温かく迎え、サポートする指導医の先生たちとともに、
研修先として決め手となったポイントや現在の研修の様子について、
話してもらいました。

内藤：早速だけど、二人が病院に来てもうすぐ4カ月。今はどのような研修生活を送っているの？

香川：内視鏡などの手技をとっても早い段階から教えてもらっています。あと、当初は担当ではなかった救急当番を「やりたい」と志願したら、その翌週には許可が出ました。練習や努力を上級医の先生方は見ていてくれて、経験を積みたい、挑戦したいことには、必ずチャンスを与えてくれるのがありがたいです。

東：僕も同じで、早い段階からいろいろと教えてもらえるから、自分がやれる幅が広がるのが分かります。成長をリアルタイムで感じることができると嬉しかったです。

内藤：大きい病院で何十人と研修医がいる場合は難しいかもしれないけれど、当院の研修医は、今年は四人。しかも教えたがりの先生が多いから、しっかりとサポートを受けながら、早い段階でいろんな経験を積むことができるんだよね。



大塚：指導医の先生たちも研修医をちゃんと意識している。担当医や担当科を超えて、研修医を育てていこうって空気が感じられますね。

香川：ほかの病院で研修している同期たちからは、「研修医はあまり相手にしてもらえない」という声を聞くこともあります。でも、当院の指導医の先生たちは、研修医や研修環境のことを優先して考えてくれていると感じます。

大塚：医師だけでなく、看護師や薬剤師、スタッフみんなが、研修医のことを気にかけているよね。

内藤：去年は初期研修医が入ってこなかったこともあって、みんな嬉しいんだよね。ところで、研修でこの病院を選んだ決め手は何だったの？

東：僕は学生時代、あまりまじめなタイプでなく……(笑)、得意科目が限られていたんです。それで、呼吸器内科と血液内科が強い病院を選びました。ここは入院患者さんの症例数も多く、内科系の研修が充実していたのが決め手です。

内藤：内科から研修をスタートして、糖尿病・内分泌・呼吸器のセットと消化器・血液内科のセットで3カ月ずつ回る。1カ月という病院も多いので、内科の症例を多く、並行して診られるというのが当院の研修プログラムの最大の特徴だからね。香川先生は？

香川：大学の先生に「雰囲気が良い病院があるから行っておいで」とって、紹介してもらったことがきっかけで見学に来ました。研修先を選ぶときに、働いている人たちがどういう人なのかということが一番重視していました。実際に見学に来てみたら、みなさん明るくて、優しく、「いい病院だな」と率直に思いました。いくつかの病院に見学に行きましたが、一番雰囲気が良かったんです。

大塚：先生たち研修医が来てくれたことで、院内の雰囲気はまた明るくなったね。初期研修医がいると、専攻医が先輩として教えることも増え、彼らの勉強にもなる。専攻医がレベルアップすれば、スタッフやほかの上級

医のやる気にもつながる。東先生や香川先生たちが楽しそうに研修生活を送っていることで、すごく良い循環が生まれていると思います。

香川：同期も仲がよくて、何かあると相談に乗ってもらいます。

東：雰囲気については本当に、言うことがないくらい恵まれています。研修も、自分の希望やベースに合わせて細かにカリキュラムを調整してもらっているので、それも日々のやる気につながっていますね。

大塚：研修先を選ぶときって、都会の大きな病院に目がいきがちだけれど、実は地方にも穴場の病院ってたくさんある。ミシランに載せたい名店がある！みたいな(笑)。

内藤：小回りが利くのも、当院の良さ。大きな病院では難しいことも、逆にここではサポートできることがあるから。引っ込み思案だったり、不安を感じたりしている人も、やる気があれば大丈夫。サポートするので、ぜひ一緒に働きたいですね。

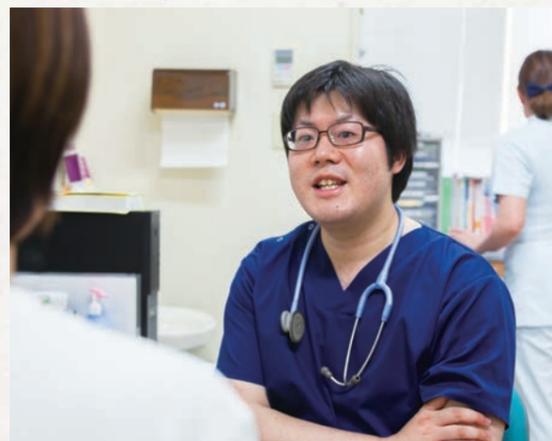


副院長
臨床研修責任者

玄馬 顕一先生

Kenichi Genba

医師や看護師、病院スタッフのみなさんが、伸び伸びと仕事を楽しくめるような雰囲気づくりを心がけています。



公立学校共済組合
中国中央病院

〒720-0001
広島県福山市御幸町大字上岩成148番13
TEL: 084-970-2121 FAX: 084-972-8843
E-mail: takitani-ritsu@kouritu-cch.jp

Hospital Director:
上岡 博

■病床数: 277床
■指導医: 19名
■初期研修医: 4名



<http://www.kouritu-cch.jp>



地域とともに、医師の礎を築く 市立三次中央病院

地域医療を支える基幹病院で
医師としての姿勢を学びたい

備北エリアの地域医療を支える
市立三次中央病院では、
今春、沖縄から帰広を決めた研修医を
迎えました。
沖縄に残ることも考えたといいますが、
あえて広島を選んだ理由とは。
地域医療に興味を持つきっかけとともに、
その背景を聞きました。



原田 宏海 先生

Hiromi Harada
指導医
放射線科医長



原田 拓光 先生

Takumi Harada
佐賀大学卒
外科専攻医



平田 悠樹 先生

Hiroki Hirata
琉球大学卒
初期研修1年目



離が非常に近いと感じます。ここではいろいろな先生と会話をする機会があるので、いろいろな科をまわっている平田先生のことを、病院全体で育てるっていう意識もすごくあって、うらやましいですね。

宏海：拓光先生は、平田先生の兄貴的存在と聞いたけれど……。

拓光：そんな噂が(笑)。でも平田先生は大学も沖縄で、地元も三次からは少し離れた呉。さらに1年目の研修医は一人だから、「寂しくないかな」「飯、食っているのかな」とか……。

平田：いつもありがとうございませう！ 院内に同期はいないですが、拓光先生のように年齢が近い先生も多くいるから、ジェネレーションギャップもまったく感じることがないですね。それに今は離れている大学の同期と相談や近況報告も、SNSですぐにできます。お互いどんなことをしているのかを話して刺激し合ったり、弱音を吐いたりして、励まし合うこともありますね。

宏海：大学の同期が多い沖縄に残るということは考えなかったの？

平田：もともと将来的には広島でという思いがありました。もちろん、沖縄にもとても魅力的な病院はありました。でも沖縄は本当に居心地が良過ぎて……。あえて仲間の多いところを離れました。一人ですさまざなことを診る必要がある「地域医療」については、沖縄でとても影響され

た部分があります。広島でも、そういうことが学べる病院に行こうって。

拓光：そういう意味で、ここは高齢化している地域の医療現場の現状を知りたいという人にはうってつけだと思います。

平田：はい。それと、戦時中を描いた「この世界の片隅に」という映画に影響されたものもあります。あれは僕が出身の呉市が舞台。観たときに、僕の地元はいろいろな人が紡いで続いているんだと感じて。そういう景色や歴史を、僕も一緒に次に繋げていきたいなって。そのためには、地域医療について学ぶ必要がある。だから研修期間に幅広く総合的な力をつけるのに、今の環境はぴったりだと感じます。

宏海：研修医時代はいろいろなことがあると思います。やりたいこと、やってみたいことだけじゃなく、面倒だったり、わずらわしかったりすることでもそのすべてにぶつかってほしい。そういうのを避けて

拓光：僕はこれまで大病院や広島市の大きな病院で研修させてもらったのですが、そこはまた異なる環境が勉強になっています。ここは備北エリアの大きな病院。そのため、偏りなくさまざまな症例が診られるので、とても勉強になります。初診から治療、その先まで患者さんと向き合えるのが、とても魅力ですね。

平田：病院の雰囲気は、これまで研修した病院と違うこともありますか？

拓光：上級医の先生たちはもちろん、レジデントの若手たち、みんな距やらないでいると、いつまでたっても自分の中で不得意なままになってしまうから。

拓光：年齢を重ねていくと、固定概念も固まってきますよね。特に初期研修中はある意味すべてが新鮮だったのを覚えています。平田先生には、今の感覚を大事にしてほしい。

平田：ロールモデルになる先生がすぐそばにいるのはありがたいです。技術はもちろん、医師としての姿勢をここでしっかり学んでいきたいです。



市立三次中央病院

〒728-8502
広島県三次市東酒屋町10531番地
TEL: 0824-65-0101 FAX: 0824-65-0150
E-mail: byouinkikaku@city.miyoshi.hiroshima.jp

Hospital Director:
中西 敏夫

■病床数: 350床
■指導医: 33名
■初期研修医: 1名



<https://www.miyoshi-central-hospital.jp>



宏海：平田先生はこの春から初期研修をスタート、拓光先生は専門研修3年目を迎えたけれど、二人とも研修生活は充実している？

平田：はい。僕は1年目なので、上の先生たちからとても可愛がってもらっています。そんななか、3年目の先輩たちは優しいだけでなく、あえて厳しくすることで程よくプレッシャーをかけてくれて、それが励みにもなっています。

拓光：僕はこれまで大病院や広島市の大きな病院で研修させてもらったのですが、そこはまた異なる環境が勉強になっています。ここは備北エリアの大きな病院。そのため、偏りなくさまざまな症例が診られるので、とても勉強になります。初診から治療、その先まで患者さんと向き合えるのが、とても魅力ですね。

平田：病院の雰囲気は、これまで研修した病院と違うこともありますか？

拓光：年齢を重ねていくと、固定概念も固まってきますよね。特に初期研修中はある意味すべてが新鮮だったのを覚えています。平田先生には、今の感覚を大事にしてほしい。

平田：ロールモデルになる先生がすぐそばにいるのはありがたいです。技術はもちろん、医師としての姿勢をここでしっかり学んでいきたいです。